

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	・研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるよう指導する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①多様なサービス理解	2	2		・介護保険サービス（居宅、施設） ・介護保険外サービス
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4		・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容。 ・居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ（現場経験のある講師の体験談等） ・ケアプランの位置づけに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携  演習 ・視聴覚教材（DVD）を鑑賞後、グループディスカッションを行う。（介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的なイメージについて）
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等	視聴覚教材（DVD）、DVDデッキ、テレビ
------------	-----------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援		
指導目標	・介護職が利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防と言う介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解させる。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数
①人権と尊厳を支える介護	5	5	<p>講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)</p> <p>・介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職である事を自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例について。</p> <p>・人権と尊厳の保持 ●個人としての尊重、●アドボカシー、●エンパワメントの視点、●「役割」の実感、●尊厳のある暮らし、●利用者のプライバシーの保護</p> <p>・ I C F 介護分野における I C F</p> <p>・ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方</p> <p>・虐待防止・身体拘束禁止 ●身体拘束禁止、●高齢者虐待防止、●高齢者の養護者支援</p> <p>・個人の権利を守る制度の概要 ●個人情報保護法、●成年後見制度、●日常生活自立支援事業</p> <p>演習</p> <p>・尊厳の保持や自立支援の考え方から、事例についてグループ</p>
②自立に向けた介護	4	4	<p>・介護サービス提供の基本視点と実践</p> <p>・あるべき主体的な生活を営むために、要介護状態にならない為の予防、要介護状態の重度化を防ぐ為の手立て。</p> <p>・介護予防活動の目標及び実践</p> <p>・自立支援</p> <p>●残存能力の活用、●動機の欲求、●意欲を高める支援、●個別性/個別ケア、●重度化防止・介護予防 介護予防の考え方</p> <p>《演習》</p> <p>・介護予防活動を支える5つの考え方について、グループディスカッションを行う。</p>
(合計時間数)	9	9	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち、重要なものを理解させる。</li> <li>・介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えると言う視点から支援を捉える事が出来るようになる。</li> </ul>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設と居宅という介護環境の特性の理解</li> <li>・多職種連携のあり方、それぞれの特性</li> <li>・地域包括ケアの役割と機能</li> <li>・専門職が行う介護の基本視点</li> <li>・介護環境の特徴の理解 ●訪問介護と施設介護サービスの違い、●地域包括ケアの方向性</li> <li>・介護の専門性 ●重度化防止・遅延化の視点、●利用者主体の支援姿勢、●自立した生活を支える為の援助、●根拠のある介護、●チームケアの重要性、●事業所内のチーム、●多職種から成るチーム</li> <li>・介護に関する職種 ●異なる専門性を持つ多職種の理解、●介護支援専門員、●サービス提供責任者、●看護師等とチームとなり利用者を支える意味、●互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、●チームケアにおける役割分担</li> </ul> <p>演習 チームケアについて、その重要性、役割分担など、グループディスカッションを行う</p>
②介護職の職業倫理	1	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の仕事は公共性の高いものであり、高い倫理性が求められる事。</li> <li>・利用者、家族に対する関わり方</li> <li>・介護職の社会的責任と倫理について</li> <li>・プライバシーの保護・尊重</li> <li>・職業倫理 ●専門職の倫理の意義、●介護の理念（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）</li> </ul>
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確保の視点や介護事故の予防及びリスクマネジメントの考え方。</li> <li>・リスク分析の方法や視点。</li> <li>・事故発生時の対応と報告の仕方</li> <li>・情報共有の大切さ。</li> <li>・3つの感染経路について。</li> <li>・スタンダードプレコジョンについて。</li> <li>・「隔離」について。</li> <li>・介護における安全の確保 事故に結びつく要因を探り対応していく技術、●リスクとハザード</li> <li>・事故防止、安全対策 ●リスクマネジメント、●分析の手法と視点、●事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等）、●情報の共有</li> <li>・感染対策 ●感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、●「感染」に対する正しい知識</li> </ul>
④介護職の安全	1	1		<p>介護職員の健康管理とストレスマネジメントについて学ぶ。 介護職員の労働者としての権利と制度について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職の心身の健康管理 ●介護職の健康管理が介護の質に影響、●ストレスマネジメント、●腰痛予防に関する知識、●手洗い・うがいの励行、●手洗いの基本、●感染症対策</li> </ul> <p>演習 ・実際に感染症対策を踏まえた手洗い、うがいを全員で演習</p>
(合計時間数)	6	6		
使用する機器・備品等	石鹸、消毒液、うがい薬、コップ、タオル			

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	・介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙出来るようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護保険制度	3	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度創設の理由。</li> <li>・介護保険制度の基本的な仕組みや地域支援事業と地域包括支援センターについて</li> <li>・サービス提供事業者の指定の仕組み</li> <li>・介護保険財源の仕組み <ul style="list-style-type: none"> <li>●ケアマネジメント、●予防重視型システムへの転換、●地域包括センターの設置、●地域包括ケアシステムの推進</li> <li>●介護給付と種類、●予防給付、●要介護認定の手順</li> </ul> </li> <li>・制度を支える財源、組織、団体の機能と役割</li> </ul> <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険の理念についてグループディスカッションを行う。</li> </ul>
②医療と連携とリハビリテーション	3	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医行為と非医行為について</li> <li>・医療・看護職とのチームケア</li> <li>・リハビリテーションについて</li> <li>●医行為と介護、●訪問介護、●施設における看護と介護の役割・連携、</li> </ul>
③障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉制度の理念について</li> <li>・障害者自立支援法について</li> <li>・個人情報保護法について</li> <li>・成年後見人制度について</li> <li>・日常生活自立支援事業について <ul style="list-style-type: none"> <li>●障がいの概念、●ICF (国際生活機能分類)</li> </ul> </li> <li>・障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ●介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</li> <li>・個人の権利を守る制度の概要 ●個人情報保護法、</li> </ul>
(合計時間数)	9	9		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェエルシ

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術		
指導目標	・高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解させる。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数
			講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護におけるコミュニケーション	3	3	<p>・介護サービスにおけるコミュニケーションの目的と意義および役割について</p> <p>・円滑なコミュニケーションの為の共感と利用者理解、自己覚知および言葉遣い・高齢者や障害者のコミュニケーション能力</p> <p>・共感・受容・傾聴の態度・気づきなど、基本的なコミュニケーション</p> <p>・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助支援技術の重要性</p> <p>●相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、●傾聴、●共感の応答</p> <p>・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ●言語的コミュニケーションの特徴、●非言語的コミュニケーションの特徴</p> <p>・利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ●利用者の思いを把握する、●意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、●家族の心理的理解、●家族へのいたわりと励まし、●信頼関係の形成、●自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、●アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>・利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ●視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術、●失語症に応じたコミュニケーション技術、●構音障がいに応じたコミュニケーション技術、●認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>《演習》</p> <p>・利用者やその家族が傷ついてしまう言葉の事例を挙げ、そのチームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性についておよびチームアプローチの効果と意義について</p> <p>・記録等を作成する介護職一人一人の理解が必要である事</p> <p>・介護実践においてなぜ記録が重要か、その意義と目的。又前提である観察と情報収集の重要性と心得・記録の意義と目的、要領。</p> <p>・介護サービスの提供には相互の信頼関係、コミュニケーションによる共感的な理解が不可欠である事</p> <p>・利用者の思いを把握する力</p> <p>・信頼をつくるには相手をよく理解して、人としての尊厳とプライバシーを尊重すること</p> <p>●利用者の状態を踏まえた観察と記録、●介護に関する記録の種類、●個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）、●ヒヤリハット報告書、●5W1H</p> <p>・報告 ●報告の留意点、●連絡の留意点、●相談の留意点</p> <p>・コミュニケーションを促す環境 ●会議、●情報の共有の場、●役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、●ケアカンファレンスの重要性</p> <p>演習</p> <p>・個別援助計画書、ヒヤリハット報告書を実際に作成する。</p>
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	3	<p>・利用者やその家族が傷ついてしまう言葉の事例を挙げ、そのチームにおけるコミュニケーションの有効性、重要性についておよびチームアプローチの効果と意義について</p> <p>・記録等を作成する介護職一人一人の理解が必要である事</p> <p>・介護実践においてなぜ記録が重要か、その意義と目的。又前提である観察と情報収集の重要性と心得・記録の意義と目的、要領。</p> <p>・介護サービスの提供には相互の信頼関係、コミュニケーションによる共感的な理解が不可欠である事</p> <p>・利用者の思いを把握する力</p> <p>・信頼をつくるには相手をよく理解して、人としての尊厳とプライバシーを尊重すること</p> <p>●利用者の状態を踏まえた観察と記録、●介護に関する記録の種類、●個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）、●ヒヤリハット報告書、●5W1H</p> <p>・報告 ●報告の留意点、●連絡の留意点、●相談の留意点</p> <p>・コミュニケーションを促す環境 ●会議、●情報の共有の場、●役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、●ケアカンファレンスの重要性</p> <p>演習</p> <p>・個別援助計画書、ヒヤリハット報告書を実際に作成する。</p>
(合計時間数)	6	6	

使用する機器・備品等

視聴覚教材（DVD）、DVDデッキ、テレビ

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(6) 老化の理解		
指導目標	・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが断続的に学習すべき事項を理解させる。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	3	
			<p>・加齢に伴う五感の変化や日常生活に与える影響やケアを行っていく上での注意点について</p> <p>・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ●防衛反応(反射)の変化、●喪失体験</p> <p>・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ●身体的機能の変化と日常生活への影響、●咀嚼機能の低下、●筋・骨・関節の変化、●体温維持機能の変化、●精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>《演習》 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響を踏まえケア提供時に注意すべき点について事例を基にグループディスカッションする。</p>
②高齢者と健康	3	3	
			<p>・高齢者の意味について理解し、体におこる加齢変化について学ぶ。</p> <p>・健康の意義について学び、個人と家族のライフスタイルについて理解する。</p> <p>・高齢者の疾病と生活上の留意点 ●骨折、●筋力の低下と動き・姿勢の変化、●関節痛</p> <p>・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ●循環器障がい(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、●循環器障がいの危険因子と対策、●老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)、●誤嚥性肺炎、●病状の小さな変化に気づく視点、●高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p>《演習》 ・加齢に伴う変化について、どのように気付くことができるか、グループディスカッションする。</p>
(合計時間数)	6	6	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①認知症を取り巻く状況	1	1		①認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方およびパーソン・センタード・ケアについて学ぶ。 ・認知症ケアの理念 ●認知症ケアの視点（できることに着目する）
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2		①認知症の定義、診断基準など認知症の基礎知識。 ②加齢に伴う物忘れと認知症の違いおよび認知症の初期症状、診断基準について ③認知症の原因となる疾患の種類についてアルツハイマー型認知症と血管性認知症・レビー小体型認知症・前頭側頭型認知症・その他について ④認知症の中核症状と行動・心理症状(B P S D)・薬物療法について ・認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別のケアのポイント、健康管理 ●認知症の定義、●物忘れとの違い、●せん妄の症状、●健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、●治療、●薬物療法、●認知症に使用される薬
③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2	2		①問題とみなされがちな行動・心理症状は認知症という病気に伴うものであることおよび対処方法について ②行動・心理症状が誘発される介護職の不適切なケアと適切なケア ③認知症の人の言葉や表情、しぐさから中核症状の及ぼす影響や生活支援の具体的な対応。 ④認知症の人の日常生活介護における留意すべき視点。 ・認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ●認知症の中核症状、●認知症の行動・心理症状（B P S D）、●不適切なケア、●生活環境で改善 ・認知症の利用者への対応 ●本人の気持ちを推察する、●プライドを傷つけない、●相手の世界に合わせる、●失敗しないような状況をつくる、●すべての援助行為がコミュニケーションであること、●体を通したコミュニケーション、●相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、●認知症の進行は急激な場合もある
④家族への支援	1	1		①認知症高齢者を介護する家族の負担感やその要因および、家族の世話と専門家のケアの違い。 ②家族介護者が在宅で出来る事と社会サービスの有効利用について。 ③家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて。 ④認知症介護の深化が問われる時代であること、および当事者の声を汲み取ったケアについて。 ⑤当事者や家族とのコミュニケーションや、その願いや介護職に期待されることについて。 《演習》 ・認知症の人を介護する家族の気持ちやストレスについて、事例を基にグループディスカッションする。
(合計時間数)	6	6		

使用する機器・備品等

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解		
指導目標	・障がいの概念と I C F、傷がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解させる。		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数
講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)			
①傷がいの基礎的理解	1	1	
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1	
③家族の心理、かかわり支援の理解	1	1	
(合計時間数)	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェエルシ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<p>・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できるようになる。</p> <p>・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得させる。</p>			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①介護の基本的な考え方	3	3		<p>①利用者一人一人に適切な介護を行うための基本的な考え方を、根拠に基づく介護の大切さ。</p> <p>②介護保険制度下の介護サービスについて</p> <p>●倫理に基づく介護 ●法的根拠に基づく介護</p>
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3		<p>①加齢に伴うこころの変化の日常生活への影響と高齢者の心理。</p> <p>②高齢期に生じやすい心理・社会的環境の変化について、それに適した適応のしかたについて。</p> <p>③喪失体験について、自己有用感について</p> <p>④生きがい作り支援の視点。</p> <p>●学習と記憶の基本的知識 ●感情と意欲の基本的知識 ●自己概念と生きがい</p>
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	4		<p>①介護の専門職として必要な、身体各部の名称や働き</p> <p>②基本動作における実際的な動きやボディメカニクスの介護への活用。</p> <p>③人間のからだの働きをコントロールしている神経系について。</p> <p>④自律神経系について。</p> <p>⑤健康チェックの意義や、脈拍・血圧・体温・呼吸の観察ポイント。</p> <p>●人体の各部の名称と動きに関する基礎的知識、●骨・関節・筋に関する基礎的知識、ボディメカニクスの活用、●中枢神経系と体性神経に関する基礎的知識、●自律神経と内部器官に関する基礎的知識、●こころとからだを一体的に捉える、●利用者の暮らしの理解と介護の意義</p>
④生活と家事	5	5		<p>①生活における家事支援の必要性</p> <p>②利用者が望む衣食住の生活支援について</p> <p>③家事支援は利用者の自立とQOLの向上に向けた制度に基づいた援助であること及び私的な手伝いではない事。</p> <p>家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p> <p>●生活歴、●自立支援、●予防的な対応、●主体性・能動性を引き出す、●多様な生活習慣、●価値観</p> <p>演習 掃除の仕方について</p>
⑤快適な居住環境整備と介護	5	5		<p>《講義内容》</p> <p>①住居のあり方をおとした、個人のプライバシーや地域との交流など、障害者や高齢者にとって快適な住居整備について</p> <p>②高齢者や視覚障害をもつ人への明るさ、防音、冷暖房と湿度のバランス、電気やガス器具の安全な使用について</p> <p>③福祉用具の活用に関する基本的な考え方 や主な福祉用具の基礎知識と利用方法</p> <p>高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法</p> <p>●家庭内に多い事故、●バリアフリー、●住宅改修、●福祉用具貸与</p> <p>演習 ・福祉用具について</p>
(合計時間数)	-	-		

使用する機器・備品等	ほうき、はたき、掃除機、モップ、車いす、ベッド、シーツ、枕、クッション、タオルケット、ポータブルトイレ、杖、白杖、タオル、バスタオル、アイマスク
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名		(9) こころとからだのしくみと生活支援技術		
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5		<p>①日常生活の中の整容の意味およびその基礎知識としくみ ②身体の清潔を維持する事の意味および採血介護のポイントと手順 ③部分的な清潔維持の方法および寝たきり状態における清潔維持の方法 ④口腔ケアの意義とその基本となる口腔や歯について ⑤口腔の清潔保持や口腔体操 ●身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、●身じたく、●整容行動、●洗面の意義、効果</p> <p>演習 ・衣服着脱の介護についての演習を行う。 ・口腔ケアの介護について演習を行う。</p>
⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5		<p>①体位と姿勢について ②衣類の着脱のもつ意味および着脱時の介護のポイント ③移乗および移乗動作および移乗の為の補助具 ④車いすについて ⑤生活の中で外出のもつ意味と外出時のポイント 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援、 ●利用者との介護の双方が安全で安楽な方法、●利用者の自然な動きの活用、●残存能力の活用・自立支援、●重心・重力の働きの理解、●ボデイメカニクスの基本権利、●移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、●移動介助（車いす・歩行者・つえ等）、●褥瘡予防 ※高齢者に関する内容に特化せず、視覚障がい者や肢体不自由者等の障がい特性を踏まえた内容も合わせて教授する。</p> <p>演習 ・移乗の介護、移乗の介助に関連する演習を行う。</p>
⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	5		<p>①食事のもつ意味と食べ物の咀嚼と嚥下のしくみ ②食事の自助具の特徴および誤嚥させない介護のポイント 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ●食事をする意味、●食事のケアに対する介護者の意識、●低栄養の弊害、●脱水の弊害、●食事と姿勢、●咀嚼・嚥下のメカニズム、●空腹感、●満腹感、●好み、●食事の環境整備（時間・場所等）、●食事に関した福祉用具の活用と解除方法、●口腔ケアの定義、●誤嚥性肺炎の予防</p> <p>演習 ・食事の介護に関連する演習を行う。</p>
(合計時間数)	-	-		

使用する機器・備品等	タオル、歯ブラシ、ヘアブラシ、櫛、コップ、衣類、バスタオル、トロメリン、食器、ストロー、コップ、スプーン、車いす、ベッド、シーツ、枕
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名		(9) ことごとからだのしくみと生活支援技術		
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑨入浴、清潔保持に関連した ことごとからだのしくみと自 立に向けた介護	5	5		<p>①入浴のもつ意味や個性および皮膚の生理的機能や皮膚の汚 れについて</p> <p>②清潔行動の仕組みと清潔保持の為の安全な援助方法</p> <p>③入浴介護のポイントや手順</p> <p>④特殊な用具や浴槽の特徴や障害別の入浴の介護方法</p> <p>入浴、清潔保持に関連した基礎的知識、さまざまな入浴用具と 整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害することごとからだの 要因の理解と支援方法、</p> <p>●羞恥心や遠慮への配慮、●体調の確認、●全身清拭（身体状 況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身 の拭き方、身体の支え方）、●目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、 ●陰部清浄（臥床状態での方法）、●足浴・手浴・洗髪</p> <p>演習 ・入浴の介護、清潔保持に関連する演習を行う。</p>
⑩排泄に関連したことごとから だのしくみと自立に向けた 介護	5	5		<p>①排泄の持つ意味と排泄の仕組みおよび介護の原則</p> <p>②排泄用具の特徴と介護のポイント</p> <p>③おむつの特徴と使用時の留意点</p> <p>排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の 活用方法、爽快な排泄を阻害することごとからだの要因の理解 と支援方法</p> <p>●排泄とは、●身体面（生理面）での意味、●心理面での意 味、●社会的な意味、●プライド・羞恥心、●プライバシーの 確保、●おむつは最後の手段/おむつ使用の弊害、●排泄障が いが日常生活上に及ぼす影響、●排泄ケアを受けることで生じ る心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、●一部介助を要 する利用者のトイレ介助の具体的方法、●便秘の予防（水分摂 取量保持、食事内容の工夫/繊維質の食事を多く取り入れる、 腹部マッサージ)</p> <p>演習 ・排泄の介護に関連する演習を行う。</p>
⑪睡眠に関連したことごとから だのしくみと自立に向けた 介護	5	5		<p>①睡眠の意味やリズムや種類</p> <p>②高齢者の睡眠の特徴と安眠への支援</p> <p>③寝具を整える事の意味やポイント</p> <p>睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方 法、快い睡眠を阻害することごとからだの要因の理解と支援方 法</p> <p>●安眠のための介護の工夫、●環境の整備（温度差や湿度、 光、音、よく眠るための寝室）、●安楽な姿勢・褥瘡予防</p> <p>演習 ・実際に安楽な姿勢、褥瘡予防に関連する演習を行う。</p>
⑫死にゆく人に関連したこと ごとからだのしくみと終末期 介護	5	5		<p>①終末期とその時の家族へのケア</p> <p>②終末期における緩和ケアと家族ケア</p> <p>終末期に関する基礎知識とことごとからだのしくみ、生から死 への過程、「死」に向き合うこととの理解、苦痛の少ない死へ の支援</p> <p>●終末期ケアとは、●高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死 （老衰）、癌死）、●臨終が近づいたときの兆候と介護、●介 助従事者の基本的態度、●多職種間の情報共有の必要性</p> <p>演習 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることが 出来るように身近な事例を通して学ぶこと。</p>
(合計時間数)	-	-		
使用する機器・備品等	タオル、歯ブラシ、ヘアブラシ、櫛、コップ、衣類、バスタオル、手桶、介護用浴槽、バケツ、おむつ、温度計、シャンプー、リンス、ドライヤー、ゴム手袋、エタノール、綿棒、爪切り、軍手、ゴミ袋、新聞紙、ポータブルトイレ、タオルケット、尿とりパット、ベッド、シーツ、クッション、タオルケット、枕			

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬介護課程の基礎的理解	6	6		①介護過程の目的と意義・展開およびチームアプローチについて ②普段の体調管理の重要性 人生暦を知り孤独にさせない工夫 ●介護過程の目的・意義・展開 ●介護過程とチームアプローチ 演習 「ケアプランの作成」についてグループディスカッションを行う。 事例に基づき、ケアプラン又は個別援助計画書を作成する。
⑭総合生活支援技術演習	6	6		事例による展開 生活の各画面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得を目指す。  ●事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 (1事例 1.5時間程度で上記サイクルを実施する) 状態像の把握(情報収集)→アセスメントの記入→介護計画の立案→グループ討議と介護計画の一本化→介護手順書の作成→介護手順書の本化→グループ別発表→評価→評価結果の報告→まとめ  ●事例は「高齢者分野」(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施。また、2事例のうち、「障がい分野」に関する事例を取り入れることも可能とする。
(合計時間数)	75	75		

使用する機器・備品等

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(9) ことろとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護の在り方を体験的に理解し、技術を高める。実習を通して介護を行う者に求められる基本的態度・人間観・知識・コミュニケーション技術を学ぶ。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
実習	11	11		<p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設等の利用者の健康、安全及び人権に配慮する。</li> </ul> <p>実習先</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問介護事業所及び通所事業所もしくは施設から、受講生の希望により実習先を選択する。</li> </ul> <p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容の理解</li> </ul>
(合計時間数)	11	11		

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

## シラバス

指定番号

商号又は名称： 有限会社 フェルシ

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①振り返り	2	2		①研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだ事について再確認する  ●研修を通して学んだこと ●今後継続して学ぶべきこと ●根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）  演習 ・研修で学んだことの中から特に意味深いと感じた点について、グループディスカッションする。 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことについてグループディスカッションを行う。
②就業への備えと研修終了後における実例	2	2		①継続的に学ぶべき事や研修終了後の継続的な研修について ●研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事務所等における実例（Off-JT, OJT）を紹介
(合計時間数)	4	4		

使用する機器・備品等	視聴覚教材（DVD）、DVDデッキ、テレビ
------------	-----------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。  
 ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。  
 ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。  
 ※ 項目ごとに時間数を設定すること。  
 ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。